

2008 年度大学入試センター主催適性試験について

1. 試験全体について

(1) 出題形式

今年度の試験は、第1部で出題の傾向が大きく変わり、また第2部でも傾向がやや変化しました。詳細については後述しますが、第1部においては、従来の大学入試センター型の趣旨である、「現場思考力を問う」という点が薄れ、第2部においては、典型的な読解表現力の問題が多く見られました。

(2) 出題内容

1部・2部のいずれにおいても、時間には余裕があったと思われます。特に、第1部については、昨年と比べ出題数が大きく減少したこともあり、時間不足に陥った受験生はごく少数であると予想されます。第2部については、「問題文に書かれていたことと選択肢の記述を照らし合わせれば解ける」という問題が多かったため、慣れている受験生にとっては容易であったといえます。第1部において、中学受験をした者に有利な、いわゆる算数型の問題が見られましたが、そのような問題も時間をかければ正解できるため、特別なテクニック・解法が必要となるような問題はないといえます。それぞれ90分間集中力を維持できれば、高得点を獲得するのはそれほど難しい試験ではないと考えられます。

(3) 難易度・傾向等について昨年度との比較

第1部：私立中学校の入試で出題されるような問題が見られました。受験生によっては少々時間がかかると思われますが、昨年と比べ出題数が減少しているため、全体としての難易度は易化したといえます。

第2部：問題文の記述と選択肢の記述を照らし合わせて解く問題が増え、昨年まで見られたような、文章を図示する問題や、規範—あてはめ問題が見られなくなりました。作業量は昨年度とほぼ同様です。

(4) 小括

昨年の大学入試センター型の試験では、事前準備が行いにくく、「基礎的な論理力を有するか否か」という問題や、柔軟性を要求する問題が見られましたが、今年度は、第1部・第2部ともに、中学受験、公務員試験等で見られるような一般的な問題が中心となりました。

2. 各部の内容について

(1) 第1部：推論分析力 (90分)

① 出題形式

大問数：9問 小問数：16 (昨年は大問12・小問20)

② 全体の傾向

従来の傾向としては、「与えられた問題文のルールを理解するのが難しいものの、正確に理解さえすれば、実際の作業量はそれほど多くない」という問題が多くありましたが、今年度はその逆の問題が見られました(第2問、第5問)。また、従来から出題されているルール型の問題についても、ルールを理解することよりも、そこからの作業に重点が置かれています(第8問)。これらのことから、論理的な思考力よりも、与えられた作業を正確にこなせるか

が主に問われているといえます。その意味で、日弁連型の問題にやや近づいた印象があります。

もっとも、形式論理問題や、資料解釈問題は依然として出題されており、まったく別の傾向とまでは言い切れません。これまでの、「理解」重視から、「実践」重視へと変化したといえます。

考えるだけでなく、実際に手を動かして作業することが必要であるため、知的持久力が求められています。

③特徴的な問題

第1問：大学入試センターにおいて、毎年必ず出題されている形式論理の問題です。このような問題では、従来から「日常と論理の狭間を問う」という趣旨がありましたが、今年度も同様です。

第2問：従来は見られなかったタイプの問題です。もっとも、中学入試等では頻出のため、適性試験受験者のなかには、得意な方もいたと思います。

第4問：大学入試センター型の、典型的な資料解釈問題です。適性試験に関する講義では、すべての講義で取り上げられていたため、講座受講生は容易に解けたことでしょう。

第8問：初年度（2003年度）から出題されている、ルール型の問題です。これまでのルール問題（2003年第7問等参照）と異なり、ルールの理解が容易になった反面、作業量が増加しています。

(2) 第2部 読解表現力 (90分)

①出題形式

大問数：10問 小問数：23問（昨年は大問9・小問24）

②全体の傾向

大問数が1問増加したものの、小問数が1問減少しています。これは、昨年までは第1部で出題されていた論理系の問題が、第2部で出題されたことが原因です。また、従来は見られた、「文章を図示する」という問題や、規範一あてはめ問題が見られなくなりました。

このようなことから、公務員試験や大学入試等で見られる、一般的な読解表現力の問題に近づいたといえます。これは、基礎的な日本語力をより強く問うという趣旨と思われる。

なお、これは出題傾向についての若干の変更であり、個々の問題文の長さ・解答にかかる時間・労力はそれほど変化していません。そのため、昨年の問題と比べ、客観的な難易度自体にはそれほど変化はないと思われます。ただし、事前に準備していた者にとっては、高得点がとりやすかった試験といえます。

問題文の内容は、例年どおり、平易で読みやすいものと、哲学的で理解にやや時間のかかるものが混在しています。その趣旨としては、平易で読みやすい文章では、内容について問い、哲学的で難解な文章では、形式的に「どこに何が書かれていたか」を問うためと考えられます。この点は、従来と変わりありません。また、問題文の量も短く、小問数も減ったため、時間不足になった受験生はごく少数かと思われます。

③特徴的な問題

第3問：問1が、大学入試センター型の典型的な空欄補充の問題です。1箇所だけを見ても解答が出にくく、文全体を大局的に見る必要があります。

第6問：選択肢で並び順を与えず、1から並び替えを行わせる問題です。このような問題は大学入試センターで頻出のものになります。事前に準備をしていた受験生にとっては容易であったと思われます。

第10問：例年出題されている、趣旨が捉えづらいタイプの問題です。このような問題は、慣れていない受験生にとっては難問といえるでしょう。

3. 総括

第1部で作業量が増加したものの、問題数やルールの理解は減少しているため、あせらず正確に作業ができたかがポイントになった試験でした。また、第2部においても、一般的な読解表現力の問題が増加したため、考えることがメインであった昨年度と比べると、公務員試験やSPIなどの、一般的な知能問題に近づいたといえます。

4. 適性試験後の過ごし方

DNC適性試験も終わり、いよいよ各法科大学院への出願シーズンへ突入します。

皆さん、志望校は決まっていますか？

「第一志望は決まっているけど、それ以外はどうか迷っている」

「適性試験の出来が悪かったけど、どうしたらいいんだろう」

そういった悩みを持っている方は、LECのイベントに是非参加して下さい。

早速本日もですが、渋谷駅前本校で『適性試験後 法科大学院出願ナビゲート』という有料のガイダンスがあります。19:00から私が講義します。事前予約はいりませんので、是非お越し下さい。

7/13(日)には高田馬場駅前本校で『LEC主催 法科大学院合同相談会・講演会』もあります。私が基調イベントで法科の在卒生と座談会をします。是非こちらもお越し下さい。

志望理由書・小論文対策・法律科目試験対策…、法科大学院入試はこれからが本番です。適性試験のスコアが悪かった方はここから挽回のチャンスです。出来ることは何でもやる、そんな気持ちで対策をするべきです。LECでは志望理由書対策・添削、小論文答練、法律科目の答練など様々な直前対策講座を準備しています。自らの実力をしっかりと見極めて、時間の許す限り対策を取りましょう。

また、スコアが良かった人も気を抜かず各法科大学院へ向けた対策を取りましょう。特に既修者入試では適性試験のスコアを重視しない大学もありますので、むしろこれからが本番といえるでしょう。前期A型答練ファンダメンタル編(ロースクール答練)は最低でも消化して本試験に臨むことが重要です。

試験が終わる、最後の一分一秒までが試験です。そこまでの道のりは辛いものですが、私を始めLECスタッフ一同が精一杯応援致します。

努力は必ず報われます。最後まで頑張りましょう！

2008年6月23日

LEC専任講師 永野康次

LEC